

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 136号

祈りの散歩



辻 中 昭 一

4月頃になると朝4～4時半頃に私は家を出て祈りの散歩に出かける。私の住んでいる玉井町には4つの小公園があり、その一つ一つを順次訪ねて、公園のベンチに腰をおろし祈りをささげるようにしている。暁の公園には誰一人見あたらない。ただ色々な鳥たちの啼き声が聞こえるだけである。この様な時には何にも煩わされなくて祈りに集中できる。

第一の公園では国際情勢を心に画き、米国、日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、ロシア、ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン、イスラエル、パレスチナ、アフガン、イラクなどの国々の指導者たちの名をあげて祈る。ここでの祈りが終わると次の公園に向かって歩きはじめる。つい先日迄は紫木蓮が美しかった道である。

木蓮の後には君子蘭があちこちに咲いている道を通って第二の公園に着く。ここでは扇町教会から始まって鴨東教会、石橋教会、交野教会、都島教会、出来島伝道所、夜久野教会、梁瀬伝道所、旭キリスト教会、千里聖愛教会などの教職、役員、信徒、求道者などの名をあげて祈る。少し明るくなりかけて来たこの公園には、三方につつじの植込みがあり、花に見守られて一刻を過ごす。

ここから約200メートル位の所に第三の公園がある。全国高校野球発祥の地記念小公園である。東の空が朱に染まり、太陽の昇るのが近いのを覚える。ここでは病気と戦いつつある教職、その家族、など20数名の方々の名をあげて祈る。この公園にもいろいろな季節の花々が植えられていて、豊中市の公園課の方々に感謝をささげる。

ここから更に400メートルぐらい歩いて行くと久保公園という可成り大きな公園に着く。先日迄は桜や雪柳が満開であった。ここでは扇町教会や旭キリスト教会の会員で入院中の方々、その家族など約30名ぐらいの方々の名をあげて祈る。公園の時計に目をやると5時30分になっている。そろそろ家に戻って野菜や草花に水をやらねば……と歩き始める。この頃になると犬を連れて散歩にやってくる人たちに次々と出会う。「犬を散歩に連れ出すことによって、主人の健康は保たれているんです」と言われたAさんや、その友人たちのためにも祈る。そして「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた」(マルコ1:35)とのみことばを思い浮かべるのである。

(大阪-旭キリスト教会牧師)

回想 祈りの聖徒・ 山本繁夫先生



九州アシラム
事務局 岡山 敦彦
日本同盟基督教団
小倉中央教会牧師

祈りの聖徒であった山本繁夫先生は、昨年九月十七日主の元に走るべき道のりを走り終えて凱旋されました。

私は、先生を信仰の父として愛しまた心から尊敬しておりました。多くの思い出がありますが、アシラムを通して与えられた主にある交わりの恵みを思い起こしてみたく思

ます。

私がアシラムに参加するようになったのは、二十年近く前、山本先生のお誘いによるものです。それから欠かすことなく参加して、多くの恵みをいただいています。山本先生がご高齢にもかかわらず、委員長をお引き受けされた時、何とか先生をお助けしたいとの思いに導かれて以来、裏方の事務局の仕事をさせていただいております。

先生は、スタンレー・ジョーンズ先生との出会いを通して多くの恵みを受けられ、九州アシラムの委員長としてまた祈りの戦士として奉仕してこられました。第一回九州アシラムから欠かすことなく、参加されていきました。先生の最後の参加は一九九七年の第三二回アシラムであります。ひとこと言うなら、先生は祈りの人でありました。先生は生前このように申されていきました。「もし山本という牧師のことを思い出してくれる人がいたら、『彼は良く祈っていた』と覚えていてくれたら、それで十分だ。」と申されたことを忘れることができません。そのことばの通り、先生はいつも祈りに集中しておられました。

九州アシラムには、ひとつの貴重な財産があります。それは午後十時から翌朝の午前五時三十分まで続けられる連鎖祈禱の時間であり、そ

の時に記される「祈禱ノート」であります。参加者たちが祈りの課題として記されたことが、次々に祈り継がれていくのです。一九九六年、九州アシラムで先生が記された祈りの課題が残されています。

一、第三一回九州アシラムに参加できて感謝。

二、講師の先生を始め諸師のご奉仕に心からお礼申し上げます。労苦をねぎらって下さい。主よ。

三、次回より新しい場所に移る予定です。主よ。その場所が更に更に祝された会場であり、九州アシラムが継続されるように祈ります。

四、主よ。ここにおける最後の明日一日も祝福されますように。

五、会の主催者一同に恵みを加えてください。

この祈りを読めば、先生がどれほど九州アシラムを愛し、背後で祈り支えておられたかがよく分かります。

九州アシラムも今年三九回を迎えることとなります。信仰の先輩が残されたこの遺産を、大切に引き継いでいくことを改めて決意することです。

晩年、先生は大分県中津市にあるキリスト教の福祉施設で過ごされておられました。私がお見舞いに行った時、先生がいつもおっしゃっていたことば。「感謝。感謝。いや本当に感謝だ。」そのことばと先生の笑顔がいつまでも私の心に残っています。

証立 アシラムと 救いのお証

池の上キリスト教会
飯島 庸江

私が始めてアシラムを知ったのは、一九八五年の関東アシラムの時のことでした。

十三年余り暮らしたフランスから戻ってきて三年半ほど経っていたのですが、健康状態も優れず、いろいろと問題を抱えていましたので、家族のものからも祈りを積まれていたようです。ニードと言って祈り求めていることを思い定めていくのだと聞きましたが、なかなか定まらず、結局分団において分かち合うときには「進むべき道を開いていただきたい」ということと「父の病を癒していただきたい」と述べ、隣に分団で座った方に祈っていただきましたし、私もお隣の人のニードのために祈りました。これは私にとつて新しい経験でした。根本的には自力本願でやってきたので、欲得を離れて祈ったことがあったかどうか定かではありませんが、この年のクリスマスには受洗することになったのです。父の健康のため家で開催された一麦会と言う家庭集会で祈ってきて二年余り経

つっていたので妹二人と姪とが別の教会の方四人とで池ノ上キリスト教会の山根可式(よしいち)先生より洗礼の恵みに与りました。本當言うとは私はいろいろご縁のあった日本の神様のことが気になっていてまだ十分納得がいていないと思つたのですが、まあいわば妥協してクリスチャンにしていただいてしまいました。

あるとき本田弘慈先生にお目にかかったとき、「あなたは悔い改めが足りないから喜びができません。」とおっしゃって、「子よ、あなたの罪は赦された。」と言ふ言葉と、「神にとつてできないことはあります。」のみ言葉によつて導いてくださいました。この先生のお助けによつて、私は心が二つに割れて争うような思いを経験しました。私が欲していたものが与えられないというお返事が来たとき、それが良いのだという気持ちと怒りの気持ちとが争い、暫くの後、静かな気持ちで勝利をおさめたのです。教会の礼拝に出席し、いろいろな家庭集会や教会の婦人の集まり等で聖書の解き明かしを受け、そのあとお分かち合いをすると、私は自分の罪を示されることが多くありました。神様と出席の皆さまにずいぶん聞いていただきましした。するとお約束どおりそれが赦され、記憶も薄れ、過去のそうしたこ

とに悩まされることがほとんどなくなりました。

私がアシユラムに関心をもつたのは、私が語学を学ぶのに長い時をかけてきたことに関係があります。フランスにいたときはある日本の健康法に関心を持ちそれを外国に紹介しようと思つていたので、今度は先生方のお供で国際アシユラムに何度か出席させていただきました。インドのサトタルにまで行かれたのはやはり感激でした。アメリカの一行とニューデリーで合流できて、心丈夫でした。もつともアメリカの人たちがアグラにタージマホールを見に行つてしまつてから私たちだけで市内観光したとき別に問題はありませんでした。

アシユラムではニードを表明しますがそれについて互いに教えあつたりせず、お答えは神様より、直接いただくというのがとても好きです。口の悪い先生が私に「穴があつたら落ち込んでしまいそうだったね。」と言われました。こういうことを言われたのはもうその危機から脱したということだろうと思ひ喜んでいきます。私は、自力で道を切り開くことから、神様が与えてくださるもので満足するようになり平安を得ました。

「主よ、終わりまで仕えまつらん」というのが今の心境です。

第11回東京新生教会

アシユラム報告

横山 義孝

当教会アシユラムは二〇〇四年二月二十一日(土)夕七時より八時迄の開心の時をもつて開始。八時から九時迄がグループの祈(Ⅰ)で、開心の時のメッセージに導かれてグループでの開心と祈りの交わりに入りました。夜十時から明朝七時迄は連鎖祈禱の時を持ちます。一時間宛(人によつては三十分)担当して、おもに各自の家庭に於て祈りの時をもちました。各自ガイダンスに従い、ロマ書十二の一〜二十一、使徒二の一〜四十七、マタイ六の十九〜三十四をテキストとして聖書精読十五

分、祈り十五分、教会員相互のため、救いに導きたい魂の名をあげて祈る等、聖書と祈りを十五分毎に繰り返して持ち時間を全うしました。明朝二月二十二日(日)午前九時四十五分〜十時二十分を静聴の時(二十名参加)テキスト・フィリピ三章全体、詩篇三十二篇を黙読した後、恵みのみ言葉を、又前夜の連鎖祈禱での恵みの分かち合いをいたしました。午前十時三十分より主日共同礼拝。今回はホーリーネス池の上教会員飯島庸江姉によつて恵みのお証しが語られました。同教会の創立者山根可式先生の訓陶を受け、不思議な導きの内に

信仰を与えられ、アシユラムによつて養われて来た恵みが語られました。続いて主任牧師による「主の靈による自由」(Ⅱコリント三の七〜十八)のメッセージ。礼拝後は、ゲストの飯島庸江姉を囲んで愛餐会。楽しい交わりの時となりました。午後一時から二時は祈りのグループ(Ⅱ)、当日礼拝後初めてプログラムに参加したかただけのグループを増して三分団で、伝道と証しの信仰生活を全うするためにニードを出しあつて、隣の友のために祈ることが出来ました。二時から三時が「充滿の時」。プログラム全体を通じて与えられた、恵み、決意、明け渡しの恵みが感謝の内に分かち合われ、二



各地区アシュラム

●第四十二回関東アシュラム

とき・二〇〇四年九月二十日

(月)〜二十二日(水)

ところ・山崎製パン箱根山荘

助言者・後宮俊夫師

(日基甲西伝道所牧師)

●第三十八回関西アシュラム

とき・二〇〇四年十月十日(日)

〜十一日(月)

ところ・国際交流セミナーハウス

皇子が丘荘

●第三十九回九州アシュラム

とき・二〇〇四年九月十九日

(日)〜二十日(月)

ところ・福岡黙想の家

●第九回富山アシュラム

とき・二〇〇四年九月二十三日

(木)〜二十四日(金)

ところ・インテックス大山研究所

助言者・赤松敬明師

(日基坂城栄光教会牧師)

●日本クリスチャンアシュラム連盟

全国理事會

とき・二〇〇四年六月三日(木)

〜四日(金)

ところ・(港区) 国際文化会館

議題・日本アシュラム五十周年

記念に関する件。その他。

人宛組になって相互のために祈りの時を再度持ちました。

最後に日本アシュラムの歌を歌い、愛のきずなを組み、「イエスは主なり」の主題を唱和してプログラムを終了しました。参加者は二十八名。ハレルヤ。

地区アシュラム指導の手引

海老沢 宣道

A アシュラムピラミッド



イエス・キリストはアシュラムのリーダーである。出発点である。アシュラムはキリスト中心である。われらは彼によって動かされる。全ての教派のクリスチャンは彼の下に集まることとが出来る。未信者も、自由に主の下に来ることが出来る。われらは教派的に集まっていけないから。

7 全国運動の推進組織をいう。

12 地区アシュラムの推進組織(委員会)である。120のために働く。

120 地区アシュラムの家族(参加者)である。アパ・ルームの祈りの群に相当する。地区アシュラムの最高機関である。500 アシュラムの賛同者(賛助会員)で、この運動のために祈り、働き、支持する。復活者キリストに出会った人々の群である。

教会はアシュラムは教会中心である。彼らの忠誠、愛、時間、才能を奪うものではない。アシュラムは彼らによりよい人間となることにより、よりよい牧師、役員、教会員として教会生活の中に浸透する運動である(スタンレー・ジョーンズ)。神の国はわれらは主イエスと共に出発するが、主イエスは神の国を以て出発された。主に対する忠誠は神の国に対する忠誠を生み出すものである。

B 地区アシュラムの運び方

基本点はイエスを主とすること。

(1) 開会礼拝 まず歓迎の言と、いろいろのちがった背景から来ているが、キリストに属する全ての者はキリストに属する全ての者に属することが語られる。ファカルティー(指導者)の紹介、出席参加者一同も、住所、氏名、所属教会、職業、アシュラム参加回数などを紹介する。われらのちがいを語り、交りに入るためにそれらを忘れることに重点がある。

(2) 晩禱 司会者は沈黙の時についての説明をしてから、最後に三本指を上げて、イエスは主である、とお互いに挨拶することを勧める。期間中、殊に沈黙の時にこのサインをお互いにする。

(3) 沈黙の時 アシュラムの本質的な部分である。(夜十時から朝の瞑想の時まで) お互いの挨拶は三本指である。この時間は神に聴き、神に語る時である。朝は沈黙の内

に主のみに前に挨拶する。これは厳守する。

(4) 朝の静聴 六時に起床、四十分の中に用意して、聖書、信仰書を讀むことから初め、祈り静聴する。七時すぎにリーダーから、まず聖句、啓示など受けた事柄を分かち初める。一同も自由にそれになら

つて分かち合う。
(5) 朝の挨拶 リーダーは片手をあげ、主はよみがえられたと言う。一同も片手を上げ、主は実によみがえられたと答える。次に三本指でイエスは主であるの挨拶を交わす。(以下次号)

編集後記

明二〇〇五年日本アシュラムが五十周年を迎えます。全国レベルの記念アシュラムを願っています。乞うご加禱。

各地区、各教会のアシュラムに祝福を祈りつつNo.136を送ります。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文会教会寄付
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一―四五五八
理事長 大石嗣郎
編集人 横山義孝
定価 一部60円 千80円